

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

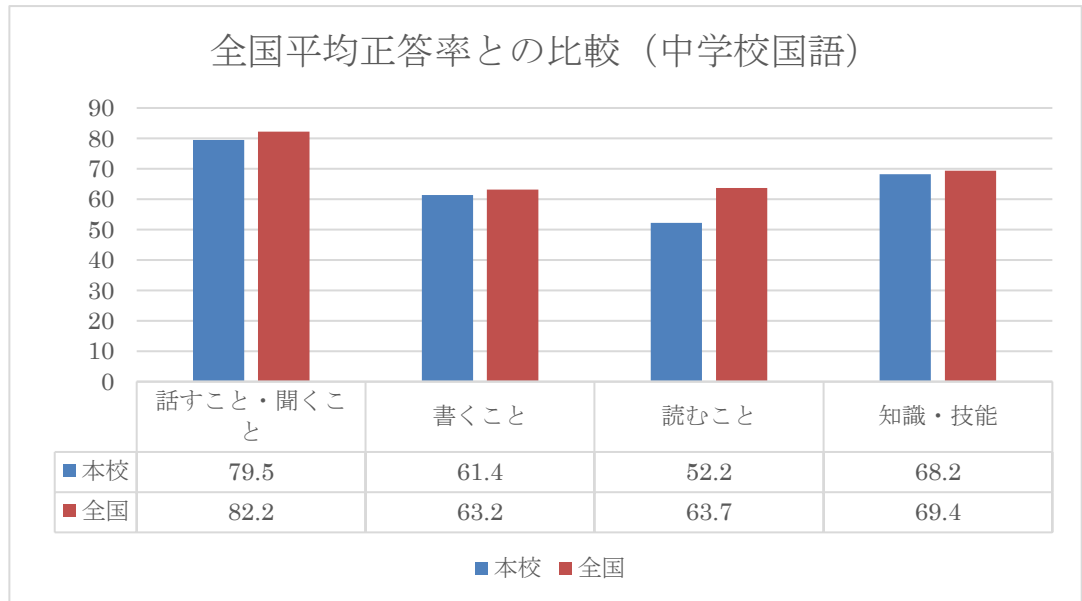
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

基礎的な「知識・技能」と「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は全国平均に近い結果でしたが、「読むこと」は全国平均より11.5%下回っていました。

(2) 成果と課題

言語事項に関する小テストや日々の課題の提出などの取り組みにより、基礎的な「知識・技能」はある程度定着していると考えられます。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したり漢字を書いたりする問題の正答率は、全国平均を上回っています。また、プレゼンテーションやディベートなどの言語活動を授業に積極的に取り入れたことにより、「話すこと・聞くこと」の力もある程度は身に付いていると考えられます。

「読むこと」については、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」や「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基にして捉え、要旨を把握すること」がやや不十分であるという結果が出ています。

(3) 学力向上のための取り組み

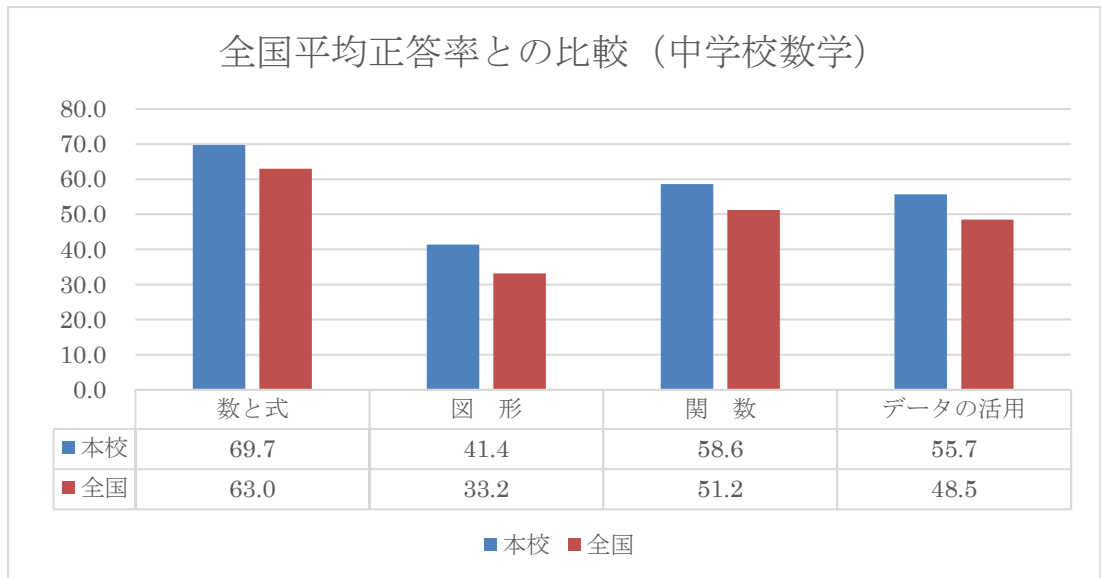
【学校では】

- 子供が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 文章の構成や展開、表現の効果を意識した文章を書く機会を増やします。
- 一人一台のタブレット型端末を活用し、情報の収集や整理方法を習得できるようにするとともに、プレゼンテーションソフトを使う機会を増やします。
- 家庭学習やテスト勉強の方法などを具体的に示し、自主的な学習を促します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。音読が脳を活性化することは科学的に証明されています。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。特に長期休業中は、学校からも読書を勧めています。どのような本を読んだのか、あるいは感想などを聞いてあげていただきたいと思います。
- テレビのニュースなどを見ながら、子供の感想や考えを聞いてください。つたない言葉でも、まず自分の考えを言葉で表現する習慣を身に付けさせましょう。

2 数学



(1) 結果

すべての領域において、全国の前答率より6～8%上回っていました。問題別に見ても、15問中13問が全国の前答率より上回っていて、特に、自然数や累積度数の意味、数の性質の証明、一次関数のグラフから読み取る説明などの問題は、全国より15%以上上回っていました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法をグラフや式を用いて数学的に説明する問題が、全国平均より15.8%、県平均より21.8%上回っていて、図形の性質を証明する問題が、全国平均より12.7%、県平均より20.7%上回っていました。普段の授業で、「学び合い」の時間を設け、お互いに自分の考えを説明し合う時間を多く取ることで、このような問題にも対応することができるようになったと考えられます。

また、全国平均を下回っていた問題は2問で、1問は文字の式の分数の計算で、もう1問は、長い問題文を読んで、その通りに計算をする問題でした。分数の計算は、小学生の頃から苦手意識をもっている生徒もおり、中学校で改めて学習をし直すこともないため、ドリルや自主学習ノートを使って、自主的に分数の計算練習をしてほしいと思います。

(3) 学力向上のための取り組み

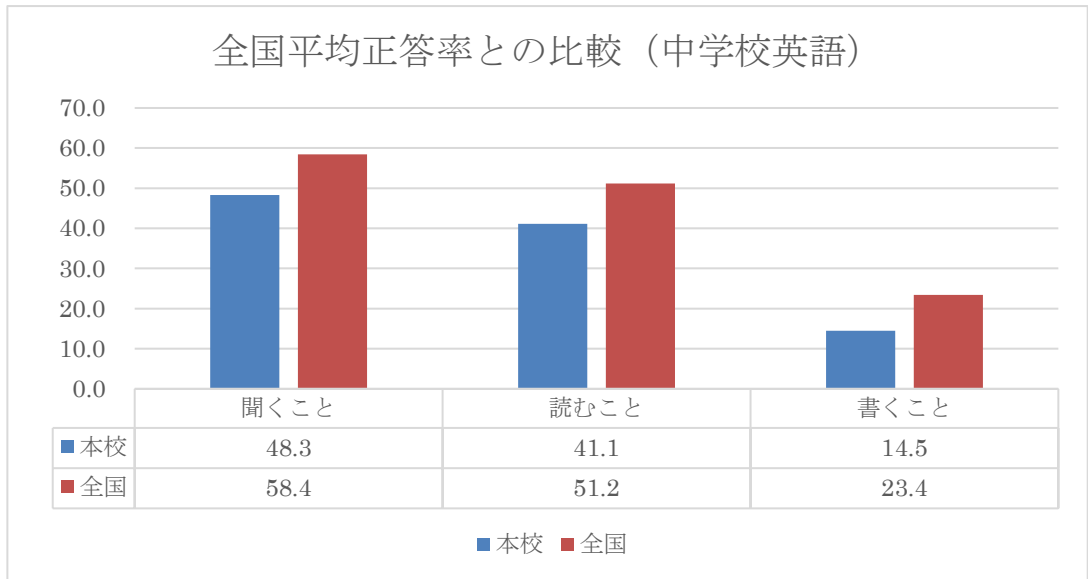
【学校では】

- 授業では、知識・技能を教え込むのではなく、考えさせ、話し合わせ、自分たちでその技能を発見・習得できるように工夫して行います。また、学習した知識や技能を使う場面を多くつくり、知識・技能が自然と身につくような授業を心がけます。
- 今後も、授業の中で「学び合い」の時間を取り入れ、自分の考えを持たせた上で、それをお互いに説明し合う時間を大切にしていきます。また、説明するときに、タブレット端末を活用し、より表現力や判断力を身につけられるように工夫していきます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学を好きになるためには、問題解決に向けて粘り強く考え、自分で正解を導き出し、達成感を感じることが重要です。つまり、数学の学習だけでなく、他の教科の学習や生活における様々な問題で、すぐに答えを見たり教えてもらったりするのではなく、まず、時間をかけて自分の考えをもつことが大切です。ゲームやパズルなどの遊びの中でも同じことがいえます。「まずは自分で考える」ことを大切に生活してください。

3 英語



(1) 結果

全ての領域において、全国平均をやや下回っていました。「聞くこと」「読むこと」の領域では、全国平均に対して10.1%下回っていました。また、「書くこと」の領域では、全国平均に対して9.9%下回っていました。

(2) 成果と課題

授業内での英語のやり取りや教科書の概要を聞き取る活動などの取り組みにより、「聞くこと」の領域について、情報を正確に読み取る問題では全国平均正答率を0.5%上回っていました。また、本文の中から必要な情報を抜き出したり、TF問題や英問英答の問題に継続して取り組んだりすることで、「読むこと」の領域では、情報を正確に読み取る問題で全国平均正答率を1.0%上回っていました。

一方で、領域ごとの結果では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について基礎的・基本的な知識が十分に身につけていないことが示されています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- インプット（読むこと・聞くこと）とアウトプット（書くこと・話すこと）を統合した言語活動の充実を図ります。
- 朝の時間や帯活動を活用して、語彙および文法の反復練習を行うことで、基礎的・基本的な知識の定着を促します。
- 学習者用デジタル教材などのICTを活用し、生徒の実態に合わせた個別の支援を行います。

【ご家庭では】

- 語彙習得のために、できるだけたくさんの英語に触れることが重要です。授業で活用した単語帳の中から、一日〇語というように目標を立てて、継続して学習に取り組みましょう。その際には、読みながら書くことで英語力の向上につながります。
- 英語学習についての動画を視聴したり、記事を読んだりすることをお勧めします。また、言語や文化についての関心を高めることも大切です。映画や本などを通して、たくさんの英語に触れましょう。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	80.1%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	37.0%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	59.8%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	34.3%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	39.7%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	75.9%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.3%	80.3%

生活習慣に関する朝食、起床、就寝時間についての項目は、全国平均を上回り良い傾向が見られました。引き続き家庭への協力をお願いし、家庭と学校で連携して生活リズムを崩さないように指導していきます。

一方で自己肯定感の低い生徒が多く、全国平均より3ポイントも低い状況にあります。この点でも家庭と連携し、改善を図っていきたいと考えています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	11.7%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.2%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	17.5%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	32.5%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	24.0%	18.0%
「30分より少ない」	13.2%	9.9%
「全くしない」	7.4%	6.0%

家庭学習に関する項目は、全国平均との比較でかなり厳しい実態となっています。特に「3時間以上勉強している」生徒が-5ポイント、「1時間より少ない」「30分より少ない」「全くしない」など、家庭学習をしていない生徒が多くなっているのが大きな課題と考えます。「確かな学力の定着」には学校での学習だけではなく家庭学習が欠かせません。この点でも家庭と連携して取り組んでいきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 役割を明確にして出番を作り、承認していく場面を意図的に作ることで自己肯定感を高めていきます。またクラス内での「いいところ探し」を継続して行うことで相互理解を深め、自他の命を大切にし、いじめを許さない雰囲気を醸成します。
- 「確かな学力の定着」を目指し、学力向上に学年全体で取り組んでいきます。特に朝の時間を活用して小テストやテキスト学習を行ったり、生徒会と連携して自学の質の向上にも取り組んだりしていきます。
- 家庭学習の充実を図るために、各教科による家庭学習用の課題を工夫していきます。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」と家庭学習の時間確保については、これからも引き続きご協力をお願いします。また生活リズムや家庭学習にも大きく影響を与える SNS 等の利用については、夏季休業前に夜 10 時以降の使用を自粛していただくようお願いしたところです。これからいよいよ受験シーズンとなりますので、ぜひ引き続きご指導いただきますようお願いいたします。